

令和 2 年度事業報告

社会福祉法人 翡翠会



社会福祉法人 翡翠会

法人の理念

「地域と共に生きる」

翡翠会行動指針

「3つの顧客、3つのLIFEの最大化」

3つの顧客

- ・利用者様…翡翠会のサービスを利用する方々
- ・地 域…大網白里市をはじめ山武郡市の地域住民
- ・職 員…翡翠会に勤務する職員

3つのLIFE

- ・生 命…健康管理
- ・生 活…日常生活
- ・人 生…生きがい

利用者様への基本姿勢

- ・利用者様の意向を尊重して、多様な福祉サービスが総合的に提供されるよう創意工夫すること。
- ・利用者様個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成すること。
- ・利用者様の能力に応じ、自立した生活を地域で営むことができるよう支援すること。

翡翠会職員行動規範

- ・「清潔感」と「礼儀正しさ」
- ・「スピード」は誠意のあらわれ
- ・「普通感覚」を忘れない
- ・「エコ」～「お金」「もの」「人力」を大切に使う
- ・「能動性」～自ら気づき行動する勇氣
- ・「チームワーク」～自己任務遂行と多様性の尊重

事業報告

令和2年度法人目標

- ・災害に対する備えを強化する
- ・人材確保と定着の促進

次年度への考察

・社会福祉施設等整備費補助金を活用し、2年越しで山武みどり学園にLPG非常用自家発電設備を導入できた。これにより3日間の電力を賄うことが可能となり、利用者様だけでなく福祉避難所として地域の障がいをお持ちの方々を支えるハードが整った。今後はBCPの策定といったソフト面を構築することが課題である。

・2019年度から比べ2020年度は若干改善したが、まだ離職率は低くない。更なる職員の定着を図れるよう、労働環境などをしっかりと整えていきたい。

・人材確保については31名採用と前年より2名多く採用できた。このうち働き方改革により、「平日日勤のみ」「週休3日」正職員を募集したところ、6名採用することが出来た。今後も多様な働き方を提案し人材を獲得していきたい。

○理事会

- ・令和2年6月23日 10:30~11:30（中部コミュニティセンター）

議 題：令和元年度事業報告案について

令和元年度会計決算案について

監事監査報告

山武みどり学園非常用自家発電設備整備工事について

（入札方法・選定基準・最低制限価格）

定時評議員会の開催について

諸規定の改正について

理事長の専決業務報告について

- ・令和2年7月22日 10:00~11:00（山武みどり学園 会議室）

議 題：山武みどり学園非常用発電設備整備工事について

（入札参加資格委員会）

定款変更について

- ・令和2年8月20日 13:30~14:00（山武みどり学園 会議室）

議 題：山武みどり学園非常用発電設備整備工事について

（入札結果・契約）

- ・令和3年1月30日（書面表決）

議 題：役員等報酬規程の変更について

山武青い鳥工房入浴料の改定について
諸規定の改正について

- 令和3年3月26日 9:30~11:00 (中部コミュニティーセンター)
議 題：令和2年度補正予算(案)
令和3年度事業計画(案)
人事について
令和3年度会計予算(案)
かきつばた移転に伴う新規施設整備工事について
(入札方法・選定基準)
評議員選任・解任委員会 委員の再任について
諸規定の改正について

○評議員会

- 令和2年7月9日 10:30~11:30 (中部コミュニティーセンター)
議 題：令和元年度事業報告について(報告)
令和元年度決算書類及び財産目録の承認について
監事監査報告
- 令和2年8月20日 (書面表決)
議 題：定款変更について
- 令和3年2月9日 (書面表決)
議 題：役員等報酬規程の変更について

○職員構成 (令和3年4月1日現在)

山武みどり学園

	正職員	非常勤職員	
施設長	1	0	社会福祉士・介護支援専門員
課長	1	0	サービス管理責任者
係長	1	0	介護福祉士
支援員	15	22	主任2名：介護福祉士・保育士
事務員	2	1	
看護師	1	0	准看護師
栄養士	0	1	管理栄養士
調理員	3	5	主任1名：調理師
合計	24	29	

山武青い鳥工房・山武青い鳥の家

	正職員	非常勤職員	
施設長	1	0	社会福祉士・児童発達支援管理責任者・サービス管理責任者
課長	0	0	
支援員	5	15	介護福祉士・保育士
看護師	0	6	正看護師・准看護師
調理員	2	4	主任 1 名：調理師
合計	8	25	

カサ・ロサーダ

	正職員	非常勤職員	
支援員	2	2	介護福祉士
合計	2	2	

翡翠の宿一休

	正職員	非常勤職員	
支援員	0	1	
合計	0	1	

すえひろ工房やまぶき

	正職員	非常勤職員	
施設長	0	0	社会福祉士・サービス管理責任者
課長	1	0	社会福祉士
支援員	2	4	介護福祉士・保育士
看護師	0	1	准看護師
合計	3	5	

かきつばた

	正職員	非常勤職員	
管理者	1	0	介護福祉士
介護職	3	9	介護福祉士・介護支援専門員
看護師	1	1	保健士・正看護師
合計	5	10	

ほほえみの里 かきつばた

	正職員	非常勤職員	
ホーム長	1	0	介護福祉士・介護支援専門員
介護職	7	6	介護福祉士他
合計	8	6	

居宅介護支援事業所かきつばた

	正職員	非常勤職員	
管理者	1	0	主任介護支援専門員・介護福祉士
介護支援専門員	1	0	主任介護支援専門員・介護福祉士
合計	2	0	

※正職員 52名 非常勤職員 78名 合計 130名

○法人事務局

本年度事業の重点項目

・「働き方改革」として、平日・日勤のみや時短勤務の正職員、夜勤専従職員を採用するなど多様な働き方を進め、人材の確保に努める。また非常勤職員の正職員への転換や家庭環境を考慮した働き方の提案など、適材適所の人員配置が出来るよう環境を整える。

・職員旅行や食事会、クラブ・サークル活動への補助など事業所間交流を進め、職員間の親睦・連携強化を図る。

・法人研修の充実・見直しを行う。(これまでの全体研修・種別研修に加え、外部視察、アンガーマネジメント研修も計画する)

・新卒職員については、3月新卒研修、9月にフォローアップセミナーにてバックアップをしながら、来期新卒者への採用活動のフォローなど「あたらしい」目線での関り方でやりがいを求める。

・ホームページ・SNSでの広報活動で法人の魅力を最大限発信する。

・大網白里市住民協働事業終了後も「カフェかきつばた」や「子ども食堂」を継続し、法人の地域貢献への取り組みをPRする。

・異動についてはプラス評価を加え、昇給・賞与の査定に加える。

・山武みどり学園については新たな職種「総合支援員」を創設し、主任と同等級(4級)まで昇格出来るものとする。

次年度への考察

・「働き方改革」の中で、平日・日勤のみや時短勤務の正職員の募集を行ったところ、今年度6名を採用することが出来た。今後も多様な働き方を提案し、人材確保を進める。

・職員の親睦を図るための行事や集合研修は全く行うことが出来なかった。新型コロナウイルス感染対策のため、やむを得ないが少人数で分散して研修を行うなど工夫していきたい。急遽導入した動画視聴による研修はおおむね好評だった。次年度も活用していきたい。

・新卒職員については3名入職したが、残念ながら2名が年度途中で退職してしまった。原因としては、女性正職員の退職などでアフターフォローが十分で

はなかったと思われます。今後は新卒採用担当を配置し、アフターフォローをより万全にし・新卒採用の強化・メンタルヘルスの実施をし、環境強化していきたい。

- ・新型コロナウイルス感染対策のため、認知症カフェは行うことが出来なかったが、子ども食堂かきつばたを大網白里市子育て支援課と連携し、独り親世帯にお弁当を届ける取り組みを行った。随時 SNS や HP で発信し地域への貢献を PR することが出来た。次年度は市内子育て世帯に対象を拡大して行う。

- ・退職者の影響で年度当初大がかりな異動が行われ、対象職員は 4 月に特別昇給があった。今後も職員の人事交流とキャリアアップを図るうえで異動を定期的に行い、人材を育成していく。

○山武みどり学園

実施事業

- ・生活介護（定員 50 名）
- ・施設入所支援（定員 40 名）
- ・短期入所（定員 8 名）
- ・特定相談支援事業
- ・障害児等療育支援事業

利用者状況

【施設入所支援】

平均年齢：全体 45.2 歳（男性 44.5 歳 女性 45.5 歳）

最高齢：68 歳

最年少：29 歳

障害支援区分（平均 5.7）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	0	7	19	26
女性	0	0	0	0	3	9	12
合計	0	0	0	0	10	28	38

利用稼働率

施設入所支援 95.9%

生活介護 91.6%

短期入所 77.2%

年間行事報告

月	目的	内容
4 月	社会体験	バーベキュー
5 月	社会体験	選択食

6月	社会体験	ジャガイモ収穫祭
7月	社会体験	七夕
8月		
9月	社会体験	秋祭祭
10月		
11月	社会体験	モルック大会
12月	社会体験	クリスマス会
1月	社会体験	お食事会
2月	社会体験	バレンタイン
3月	社会体験	グラウンドボール

特定相談支援事業

令和2年度

- ・新規計画作成… 0件（うち山武みどり学園入所者 0件）
- ・モニタリング… 194件（うち山武みどり学園入所者 64件）

本年度事業の重点項目

・重度知的障がいをお持ちの方にも、楽しんで取り組むことのできる活動の提案・環境整備等を行い、どなたにもやりがい・楽しみのある暮らしを提供できるようにしていきたい。そのためにも強度行動障害支援者養成研修未受講の職員は全員受講し、支援を検討する基礎知識の充実を図り、根拠に基づいた支援ができるようにする。

・職員の定着は引き続き課題で、特に女性職員の確保・定着が急務となっている。小さな子供のいる方でも安心して働くことが出来るよう、業務内容や勤務時間等の見直しを行う。

・センサーやカメラを含む ICT 技術を導入し、利用者様の安心・安全の向上と職員の少ない夜間帯における業務の負担軽減を図る。

・自然災害への備えとして、非常用発電設備・防災井戸の設置を行い、福祉避難所として地域貢献出来るようにする。

・施設設備の経年劣化に対しては、修繕・更新等迅速に行い、利用者様の QOL 維持向上に努める。

次年度への考察

・強度行動障害支援者養成研修は随時受講する事が出来たため、支援を検討する基礎知識の充実、根拠に基づいた支援が徐々にできるようになっている。しかし、新入職員の入職もあったため、未受講の職員には早期に受講していただく必要がある。新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言の発令により、行事の縮小や外出自粛が引き続き予想されるため、施設内で楽しめるイベントを検討、実施していくことが必要となっている。

・職員の定着は引き続き課題となっている。子供のいる方でも安心して働くことができるよう、業務内容や勤務時間等の見直しを行い入職していただけるようになっている。

・ICT 技術を導入し、利用者様の安心、安全の向上と職員の少ない時間帯における業務負担の軽減を図ることが出来た。引き続き必要な ICT 技術を積極的に導入できるよう検討していく必要がある。

・非常用発電設備及び、防災井戸を設置する事が出来ている。実施に災害が起こった際に福祉避難所として地域貢献できるように、実際の運用についてマニュアル等の準備をしていく必要がある。また、施設内で新型コロナウイルスが発症した際のマニュアル等の整備も必要となる。

・施設誠意の修繕、更新は迅速に行えているが、開所 20 年目を迎えるにあたり、修繕が必要な箇所は多い。園所有の車両を含め、引き続き修繕、購入、更新を行っていく必要がある。

○山武青い鳥工房

実施事業

- ・生活介護（定員30名）

利用者状況

平均年齢：全体 40.7 歳（男性 45.8 歳 女性 36.2 歳）

最高齢：69 歳

最年少：21 歳

障害支援区分（平均 5.0）

区分	1（無）	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	7	13	10	30
女性	0	0	1	7	5	7	20
合計	0	0	1	14	18	17	50

利用稼働率

生活介護 93%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	レク	ドライブ
5月	レク	ドライブ
6月	レク	ドライブ
7月	施設行事	納涼祭
8月	レク	ドライブ
9月	社会参加	ドライブ

10月	レク	ドライブ
11月	レク	ドライブ
12月	施設行事	クリスマス会
1月	レク	初詣
2月	レク	節分
3月	レク	ドライブ

本年度事業の重点項目

- ・新規利用者様を確保するため、相談支援事業所・特別支援学校へ働きかける。
- ・利用者様のニーズも多様になってきているため、個別の活動メニューを再検討するとともに、受注作業も継続して実施する。
- ・特別支援学校の実習を終えた方々が、卒業後に利用につながるよう、学校や相談支援事業所との連携を図っていく。
- ・福祉系大学や専門学校からの実習生を積極的に受け入れ、法人への就職につながる働きかけをする。

次年度への考察

令和2年度においては、新型コロナウイルスの流行により利用者様の中には、非常事態宣言中は、2～3か所利用していた方が1ヶ所に限定して利用した利用者様が多かった。宣言が終了しても利用の自粛をしているの方がおられ日々の利用者数は、令和3年に入りゆっくりと回復してきているが、コロナ禍以前に回復するには時間がかかると思われ、相談支援事業所と連携して新しい利用者様の獲得が必要となる。

学生の実習生の受け入れについては、問合せが多くあり、積極的に受け入れていき、将来の職員確保の基礎としたい。

○山武青い鳥の家

実施事業

- ・放課後等デイサービス（定員10名）

利用者状況

平均年齢：全体 13歳（男性 13歳 女性 15歳）

最高齢：18歳

最年少：7歳

放課後等デイサービス指標該当区分

区分	該当	非該当	合計
男性	2	2	7
女性	5	3	5
合計	7	5	12

利用稼働率

放課後等デイサービス 48%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	レク	誕生会
5月	レク	誕生会
6月	レク	誕生会
7月	レク	納涼祭
8月	レク	ドライブ（小中池等）
9月	レク	誕生会
10月	レク	誕生会
11月	レク	誕生会
12月	レク	クリスマス会
1月	レク	誕生会
2月	レク	節分
3月	レク	誕生会

本年度事業の重点項目

- ・医療的ケア児の対応については検討・整備が必要であるが、他の障害をお持ちの方にも利用できるようにする。
- ・広報については「子ども食堂」も活用し、新規の利用児の確保に努める。
- ・療育活動メニューの充実。
- ・学校等関係機関との連携の強化。

次年度への考察

新型コロナウイルスの流行により、特別支援学校など教育機関が6月まで休業となったことにより半数以上の利用児童が放課後デイの利用を中止し、6月までの間は、利用児童の日々の利用が少ない状態だったが、国の要請もあり営業を継続している。学校の休業解除後においても放課後デイの利用日数が伸びない状態が続いていたところに再度の非常事態宣言により、利用児童の放課後デイの利用を中止が多くなった。この時期は、次年度の利用の問い合わせが多くある時期だが、問い合わせもない状態が続いている。相談支援事業所などと連携し、新しい利用児童の確保に努める。

令和3年3月の報酬改定等に伴い、医療的ケア児について、新たな報酬が設定された。医療的ケア児の利用については看護師が必置となり、さらに児童の医療的スコアの点数や人数による合計点等により看護師の人数も決まられている。設備・職員配置など医療的ケア児については、今後の問題として慎重に検討する必要がある。

○カサ・□サーダ

実施事業

- ・共同生活援助（定員 6 名）

利用者状況

平均年齢：全体 66.5 歳（男性 61.3 歳 女性 71.6 歳）

最高齢：80 歳

最年少：55 歳

障害支援区分（平均 4.3）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	0	3	0	0	3
女性	0	0	0	2	0	1	3
合計	0	0	0	5	0	1	6

利用稼働率

共同生活介護 100%

年間行事報告

月	目的	内容
4月		
5月		
6月	レク	誕生会
7月		
8月		
9月	レク	誕生会
10月	レク	誕生会
11月	レク	誕生会
12月	レク	クリスマス会
1月	レク	初詣
2月		
3月	レク	誕生会

本年度事業の重点項目

- ・地域との関わりが増えるよう、イベントへの参加をしていく。
- ・ホームでのイベント、個別外出を増やす。
- ・日用品の購入等は利用者様と一緒にいき、利用者様の好みの物をご自身で選んで頂く。
- ・日中活動先と連携し、体調不良時や怪我に対しての受診を迅速に行う。また、散歩など体を動かす機会を設け、身体機能の維持に努める。

次年度への考察

- ・室内での楽しんでできるスポーツレクにて身体機能の維持。
- ・室内、外出時の衛生面と安全面の強化。

○翡翠の宿一休

実施事業

- ・短期入所（定員 6 名）

利用者状況

平均年齢：全体 44.5 歳（男性 43 歳 女性 47 歳）

最高齢：58 歳

最年少：22 歳

障害支援区分（平均 4.0）

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	2	4	0	2	8
女性	0	1	1	2	1	0	5
合計	0	1	3	6	1	2	13

利用稼働率

短期入所 41.4%

年間行事報告

※翡翠の宿一休としての行事は未開催。みどり学園の行事に参加している。

本年度事業の重点項目

- ・安心して宿泊いただけるよう、山武みどり学園との連携を図る。
- ・作業所利用の方への日中活動の提案として、すえひろ工房やまぶきをご利用いただけるよう、送迎などの体制を整える。
- ・定期的にご利用いただける方を確保する。

次年度への考察

・みどり学園の短期入所から翡翠の宿一休へ移行した利用者様が 1 名いたため、引き続きみどり学園との連携を図りながら、翡翠の宿一休を利用したい方やニーズが合っているとされる方の利用を検討していく。職員に関してもみどり学園と連携を図り、兼務で職員を配置している。そのため人手不足の際は閉所、稼働日数を減らすなどの対応も考えられる。

・ことぶき庵一休の開所が控えているため、利用者様や日中活動場所の調整について、より密な連携が必要になるとと思われる。

○すえひろ工房やまぶき

実施事業

- ・生活介護（定員 20 名）

利用者状況

平均年齢：全体 35.9 歳（男性 37.1 歳 女性 33.6 歳）

最高齢：59 歳

最年少：20 歳

障害支援区分（平均 4.6）

区分	1（無）	2	3	4	5	6	合計
男性	0	0	1	4	5	3	13
女性	0	0	2	3	1	2	8
合計	0	0	3	7	6	5	21

利用稼働率

生活介護 30.9%

年間行事報告

月	目的	内容
4月		
5月		
6月		
7月		
8月	社会参加	手をつなぐスポーツのつどい絵画展（応募）
9月		
10月	社会参加	手をつなぐスポーツのつどい絵画展（観覧）
11月		
12月	施設行事	クリスマス会（通所利用者様向け・地域向け）
1月		
2月		
3月		

本年度事業の重点項目

- ・選ばれる事業所を目指す。他法人が同市内に開所する生活介護事業所と時には支え合いつつも、特色を打ち出して利用者様に選択してもらえるような施設にしていく。
- ・人材定着。新規利用者様を増やしていくためにも、受け入れ環境が整えられるよう安定した人員確保を目指す。
- ・GH開設を視野に入れながら、単独短期入所事業所の開設を検討する。やまぶきの利用者をはじめ、地域の宿泊ニーズを探る。

次年度への考察

- ・年度当初の従業員退職とコロナ禍という状況が重なり、事業所休止という形をとった為、利用者様やご家族・関係各所にご迷惑をお掛けすることになって

しまった。再開後は稼働率が少しずつ戻っていく傾向も見られたが、緊急事態宣言発令により事業所間の行き来が不可となると、その影響が顕著に現れる事となった。そのため今後の対策として必要人員を確保すること、また法人内の利用者様に頼りすぎず、地域にお住まいの方にもなるべく利用していただけるように受け入れ態勢を整えていきたい。

・地域向けの行事を開催した事で、宿泊ニーズを少なからず感じ取る事が出来た。令和3年度内の単独短期入所事業所の開設を目標にして、現在やまぶきをご利用いただいている方や地域にお住まいの方へ周知し、定期的に利用していただける方や従業員の確保等に努めていきたい。

○かきつばた

実施事業

- ・地域密着型高齢者小規模多機能型居宅介護事業所
登録定員 24 名 通いサービス利用定員 12 名
宿泊サービス利用定員 4 名
- ・共生型生活介護
- ・共生型短期入所

利用者状況

平均年齢：全体 80.7 歳（男性 75 歳 女性 84.4 歳）

最高齢：96 歳

最年少：52 歳

介護度（平均 2.2）

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男性	0	0	3	4	1	0	0	8
女性	2	2	1	5	4	0	1	15
合計	2	2	4	9	5	0	1	23

利用稼働率

登録率 95.8%

通い 83.3%

泊まり 22.0%

訪問 6,924 回（年間総数）

年間行事報告

月	目的	内容
4 月	季節情緒を味わう	花見ドライブ（八鶴湖）
5 月		

6月		
7月	季節を感じていただく	納涼会屋台のレクのみ
8月		
9月	長寿を願い開催	敬老会（食事会）
10月		
11月		
12月	クリスマスの雰囲気を楽しんでいただく	クリスマス会（食事会）
1月		
2月		
3月		

本年度事業の重点項目

- ・ほほえみの里かきつばたや居宅介護支援事業所かきつばたとの連携を継続し、利用者様の獲得や登録定員の保持に努める。
- ・利用者様の状態の把握に努め、変化に応じて他事業所とも連携し本人にあったサービスの提供ができるよう協力する。
- ・利用者様の日々の状態把握を確実にいき、家族や関係者と連携し、皆さんに喜んで頂けるような支援を心掛ける。
- ・大網白里市をはじめ、近隣の市町村や各種団体との協力、認知症カフェ、介護支援ボランティアの受け入れにより、地域の繋がりを深めると共に信頼関係を構築する。
- ・開所から 10 年を過ぎ、利用者様の増加や変化によって提供する支援も多様化してきている。職員間で情報共有を密に行い、利用者様ひとりひとりに日々対応していけるよう努めていく。ニーズに対応できるよう、将来的には増床・移転も検討していく。
- ・職員全体で会議や研修に参加する事で互いに学び合い、より良い支援を目指すことができるような環境を作り上げる。

次年度への考察

- ・令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響で認知症カフェをはじめ、ボランティアの方に来ていただく事が出来ず、地域の繋がりや関係性を作る事が難しくなってしまった。次年度にも影響は色濃く残ると予想され、ワクチンによる予防接種など高齢者である利用者様への呼びかけが重要となる。地域の方との関わりは少なくなりましたが、ほほえみの里かきつばたや居宅介護支援事業所かきつばた、地域包括センターとの連携を深め地域の介護に貢献できるよう努力していきたい。
- ・年度後半は入院される利用者様が多く、一時的に利用を離れる方も多かった。退院して戻られる方や日々の体調、怪我などの対応など利用者様の変化は利用

を継続していく中で重要となっている。

- ・令和4年度の事業所移転に向けて準備が必要である。

○ほほえみの里かきつばた

実施事業

- ・地域密着型サービス認知症対応型共同生活介護事業所
定員 18名

利用者状況

平均年齢：全体 86.7 歳（男性 83.4 歳 女性 88 歳）

最高齢：99 歳

最年少：74 歳

介護度（平均 3.2）

	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	2	1	2	3	4	5	
男性	0	1	0	3	0	1	5
女性	0	1	1	5	6	0	13
合計	0	2	1	8	6	1	18

利用稼働率

共同生活介護

1階ユニット 97.3%

2階ユニット 90.0%

年間行事報告

月	目的	内容
4月	季節を感じる 園芸活動	桜観賞 ドライブ 春野菜収穫
5月	新緑を体感 園芸活動	瀬又の鯉のぼり ドライブ 夏野菜苗の植え付け
6月	季節の花観賞 誕生日お祝い	紫陽花のお寺訪問 ドライブ 誕生会
7月	園芸活動	夏野菜の収穫。
8月	季節行事を楽しむ	納涼会・花火大会
9月	長寿のお祝い 誕生日お祝い	敬老会 誕生会
10月	園芸活動 誕生日お祝い	春野菜の種まき 誕生会
11月	紅葉狩り	近隣ドライブ

	誕生日お祝い	誕生会
12月	クリスマス・師走行事	クリスマス会・正月準備
1月	新年行事	おせち料理堪能・書初め・初詣ドライブ
2月	福を呼びこむ	節分（豆まき）
	誕生日お祝い	誕生会
3月	一足早く春体感	河津桜（白子）ドライブ
	誕生日お祝い	誕生会

本年度事業の重点項目

・かきつばたや居宅かきつばたとの連携を図り、入居対応にむすびつけていく。昨年前半は、利用者様の特養・サ高住への転居や死亡による退去が続き、空室の期間が長く続いた。待機者家族への連絡、状況把握をこまめにし、市や他事業所、民生委員への情報収集をおこない、早期に入居へつなげていく。

・台風、豪雨、地震、火災等災害毎に対応方法を整備する。施設職員だけでなく、家族・地区区長・消防団・消防署等、地域と意見交換し対応策を検討する。

・入居者様の高齢化・身体機能の低下に伴い、体調観察を通じて適切なケアを行い、安心して生活できるよう努める。医療機関・家族・職員で情報の共有を図っていく。

・研修に参加し、認知症への理解や医療の知識を深め、職員間で共有する。

・1階2階問わず、全職員が入居者様全員のケアを行う。チームケア向上のために職員の協力体制を図りつつ、職員会議をより有効にし、情報共有を進める。入居者様の状態変化に応じ、随時マニュアルを更新する。

・法人理念を実践するため、運営推進会議を活用する。地区行事へ参加も積極的に行う。

・ボランティアの受け入れや事業所PRを行い、グループホームに見学・関心を持って頂けるよう地域住民に働きかける。

・地域のニーズに応えるため、短期入所生活介護の開設準備を進める。

次年度への考察

・短期利用を活用することにより、収入の確保と次期入居者への対応の幅が広がる。

・主任を設けることによる体制の強化と柔軟な対応が可能となる。

・災害・感染症マニュアルの作成に努め、行政・地域との連携を図る。

○居宅介護支援事業所かきつばた

実施事業

- ・居宅介護支援
- ・特定相談支援事業

・障害児等療育支援事業

利用者状況

平均年齢：全体 80.7 歳（男性 80.5 歳・女性 82.7 歳）

最高齢：93 歳

最年少：57 歳

介護度

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	事業 対象者	合計
男性	2	3	7	3	2	0	2	0	19
女性	7	12	10	3	6	3	1	2	44
合計	9	15	17	6	8	3	3	2	63

利用稼働率

契約者数 65名

取り扱い件数 61名 サービス休止 2名 申請中 2名

本年度事業の重点項目

介護サービス・共生サービス・障がい福祉サービスと多様なサービスを展開する本法人の特性を生かし、様々は状態の利用者様の在宅生活を支えることを推進していく。頂いた相談は、医療ニーズや介護度、介護・障がいサービスの併用、障がいから介護サービスへの移行、困難事例等に関わらず、お断りしないスタンスを今後も継続していく。

在宅生活が困難となった利用者様は小規模多機能かきつばた、ほほえみの里かきつばたと連携し、住み慣れた地域でいつまでも自分らしく生活することを未長く支援していく。

今年度から主任ケアマネ二人となった。より質の高いケアマネジメントの提供に努める。

千葉市・東金市など他地域の方も、引き続き相談が有れば積極的にお受けしていく。

次年度への考察

令和 3 年度に山武みどり学園の相談支援事業が休止となる為、大網白里市エリアは本事業所のみで行うことになる予定である。障がい・介護問わず、法人内の他事業所との連携を今まで以上に深め 法人特性を活かした質の高い相談支援事業が行えるよう努力していく。

令和 3 年度法改正後も法令に順守に留意する。

○地域における公益的な取り組み

実施事業

- ・カフェかきつばた（認知症カフェ）

実施・参加状況

- ・毎月2回（第2・4木曜日） 11：00～14：00 開催
- コロナ禍の為、開催出来ず。
- ・あんとんねえさ 開催『九十九里地域認知症家族の会』in 大網白里市

実施事業

- ・子ども食堂かきつばた（子ども食堂）

実施・参加状況

- ・年7回 開催 毎月第4木曜日、お弁当配食で開催
(9月24日・10月22日・12月24日・1月28日・2月25日・3月25日)
- ・年間参加者 65名
- ・大網ロータリークラブ協賛による資金・食材の提供

次年度への考察

- ・新型コロナウイルスの影響で認知症カフェを開催することはできなかったが、大網白里市地域包括支援センターと連携し、九十九里地域認知症家族の会「あんとんねえさ」を開催した。
- ・子ども食堂かきつばたは人と人との接触を減らしながら、必要な支援を必要な方々に届けるため、市内の独り親世帯に配食形式でお弁当をお届けした。回を追うごとに利用者も増加し、大網ロータリークラブも前年以上に協力して頂いた。令和3年度は対象を市内子育て世帯に拡大し実施する。